



### 渡辺豊博氏(都留文科大教授)に聞く

渡辺豊博教授(63)は都留文科大で「富士山学」を教える一方、静岡県三島市でNPO法人クラウンドワーク三島

の専務理事を務め、源兵衛川再生など富士山の環境保全に取り組んできた。世界遺産の富士山の課題を聞いた。

富士山の取材中、「昔、遠足で富士山に登った時、蒸気の出ているところで卵をゆでた」「噴火口はもっと浅かった」など年配の人から面白い話を聞いた。富士山は、静岡県の三島市でNPO法人クラウンドワーク三島

# 神の山、利害超え共生を



再生し、市民らの憩いの場になっている三島市中心部を流れる源兵衛川



### 北原正彦氏(山梨県環境科学研究所研究管理幹)

富士山の麓には生物多様性という観点から、環境省のレッドデータブックに載る希少種が多数温存されている極めて重要なエリアがある。富士山は氷河期の後に噴火して完成した新しい山で、高山帯は意外と生物が貧弱だ。5合目以上は溶岩の噴出物(スコリア)に覆われ、我々は火山原と呼んでいる。日本アルプスに比べ氷河期遺存種は全くない。お花畑も高山チョウもいない。ハイマツもない。その代わり、カラマツが下から登ってきて大きくなれないので、アルプスのハイマツのように風の方向になびいていない。富士山は生態遷移の途中なのである。

# 世界遺産・富士山の麓に住んでみる

総集編

## 草原は希少種の聖域

富士山の文化遺産を育ててきたのは富士の自然だ。自然と文化を一体化して、保全管理していかないと真の世界文化遺産の維持継承にならない。それには二ホンシカの害や外来種の問題、人間の管理の衰退など生態系の景観維持が大きく関わってくる。日本全体の目で見ると、絶滅危惧のあるものが、富士山の麓に残っている。富士山の麓の草原は最後のとりでなのだ。

## 山梨県富士河口湖町

編集委員 工藤憲雄 (61) 写真部 井上昭義 (53)

山梨県環境科学研究所の「富士山溶岩観察会宝永火口観察」という企画に参加したが、あいに宝永の大噴火から300年以上も沈黙を続けているが、堂々たる活火山だ。大きな爆発は貞観6年(864年)が有名である。日本三大実録によると、溶岩は本栖湖を埋め、「せの海」は西湖と精進湖に分かれ、河口湖にも迫ったとある。溶岩流は北西麓一帯を覆い、後に青木ヶ原樹海とよばれる原生林となる。樹海は誕生してまだ300年の歴史にすぎない。最近の湖の発掘調査で、溶岩層はビルの30階に相当する1



富士山の中腹に大きな火口を広げる宝永山

## 宝永山が噴火を語る

357の高さまで堆積していることがわかった。宝永の噴火で、1000年、雲仙普賢岳の火砕流で落命したことをビデオの最後で知った。本社

## 自衛隊射爆場の問題も

取材を終えて 富士山の北麓、富士河口湖町に1カ月間仮住まいし、世界文化遺産に登録された富士山を伝えようとしたが、そのあまりの大きさに圧倒され続け、登ることも3回。それでは何も伝えられない。数少ない8、9月の晴れた日、アパートから見ると富士はデーンと構えて、どこからでも書いてみないと書けない。8月15日、富士河口湖町に入る前に義父が93歳で亡くなるということがあった。第56期陸軍士官学校卒。輻重(ちゅうじゅう)兵として満州(中国東北部)などを転戦した。そのアルパム「留魂」を見ると、秀麗な雪を頂いた富士山の写真が二重橋や

解を促進させている。基本は1基1日100人。おしっこが多いと塩分過多で濃度が下がりが分率率が落ちる。壊れて取り換えると約100万円かかる。ペットボトルなどを捨てる利用者も多い。節電のため午後7時になると発電機を止める小屋もある。そういうところは小屋の既存のポットトイレと併用し、これまで同様に垂れ流している。小屋は42軒あり、最盛期の2カ月間、1日平均200人宿泊すると仮定すると、朝食付き8千円として160万円、2カ月で約1億円くらいの収入があると考えられる。一番大事な宿泊数とか海外の人がどれくらい泊まっているのか、小屋でどんな問題が起きていくのか、また起こしているのか、トイレの実態も含めて行政的確な情報を把握していない。全部がグリーンであり、対策が不十分なのである。静岡県と山梨県が一体的に連携していきるかどうか、私